

東京都・江東区立臨海小学校

【学年】2年生 【参加児童数】39名 【実施日】6月20日(金)

心のなかを言葉にする それが作文

江東区立臨海小学校は、東京都の東側川や運河に囲まれる地域にあります。

「久米先生、こんにちは！」という元気な声が出るお昼前の教室。2年生39名が集まりました。



久米先生の問いかけに、元気にこたえる児童たち

文章を書くことに慣れていない2年生ですが、久米先生の「ふだんから気持ちを言葉にすることをしていないと、いざという時に言葉が出てこない。気持ちと違うことを言ってしまうと、友だちを傷つけてしまうこともあるかもしれない」「作文は自分の世界を広げるよい機会。夢につながる出会いになることも」

「作文を書くことは、気持ちや考え方をすり合わせる練習にもな

ります」という説明に、真剣な表情で熱心に聴き入ります。

「本を読むことは、世界を知ること。それは、宇宙人と友だちになるというくらいすごいことですよ」と説明は続き、読書推せん文に話は進みます。

みんなの才能が花ひらく

「書き出しの文章が決まると、全体が見えてくる」「どんな人におすすめしたいか、くわしく考える」「これから1年生になる人にすすめる、という方法もすてき」と具体的な書き方まで説明が進みました。

授業後半は自分の持ってきた本の読書推せん文を書きました。「すごいすごい!! みんな才能にあふれているね」



久米先生も見回りながら、1人1人に向き合います

久米先生が驚くほど、児童たちは集中して作文に取り組み、

あっという間に授業は終了しました。

まだ書きたい、まだ先生と話がしたいという子どもたちから声もよく聞かれました。

担任の先生は「まだ2年生ですが、書きたいという気持ちがある子どもたちからの声も多く聞かれました。いつもの授業とは違う雰囲気なので子どもたちもがんばって書くという気持ちになったんだと思います」と話しました。

記念写真の撮影を終え、授業が終了。



まだ書きたい! そんな思いも乗せながら、最後は元気にハイ、チーズ